

# 平成 30 年度第 3 回赤磐市行財政改革審議会議事概要

日時：平成 31 年 2 月 20 日（水）午後 1 時 32 分開会 午後 2 時 46 分閉会

場所：山陽産業会館 2 階 ふるさと交流室

傍聴人：0 人

## 1 開会

## 2 会長挨拶

## 3 市長挨拶

## 4 協議内容

### （1）第 3 次行財政改革大綱に基づく「民間活力」の導入推進について

事務局：提言書最終案について、前回からの変更箇所及び別紙業務見直しフロー図について概要説明。

全ての業務について、事務事業評価と合わせて行い、毎年見直しを行うことで業務全体の最適化を推進していき、柔軟な発想で P D C A を進めることで、市民サービスの向上、市民満足度向上に繋げていきたい。

委員：・提言は基本的な考え方ということなのでこれでよいが、フロー図を実行していくためには数値を入れていくようにしたり、例えば、必要性については、ありなしだけではなく、大中小と分けて、分析・チェックできるようにしたりしたほうがいい。

・職員がこのフロー図を見ると、多くの検討事項があることに驚いて「こんなに沢山出来そうにない」と思って実行しないかもしれないので、財政部局と総務部局などが対策本部を組織して定期的にヒアリングを行い、「検討結果を示さないで予算をつけない」といった厳しい姿勢を示しながら実行していかなくてはならない。

・全ての業務を対象に検討を進めるとのことだが、大きな問題、課題がある事業については、重点的に方向性を示して進めていくというのも有効的なやり方になる。

・職員が今やっている業務の方法は、今まで検討してきてやっているものでそんなに悪いわけではないはずだが、職員の「無駄なことはしていない」という考え方が、行革が進まない最も大きな原因。行革における検討は、無駄なことをしているかどうかを責めるわけではなく、「もっといい方法はないのか」と考えること。職員は、今の自分の仕事のやり方がベストだと思っている人が多いと思うので、特に重点的なところは「絶対に検討するように」と指示を出し、力を入れて進めていくべき。

・フローを具体的に動かしていく場合に、どの組織がどのように関わっていくのかということと、トップである市長がどう関わるのかが重要。どういう体制で決定するのかを明確にしておくべき。トップの考えをどうやって下まで浸透させていくかが重要。

・推進担当の専門部署を作ると、行革の進捗状況に責任感が高まり、職員が専心して進みやすい。

- ・昨年度の予算が 209 億で、今年が 189 億になっているが、この差のなかで行革効果がどれだけあったかを明確に示していくと、職員に浸透していきやすく、意識が変わるのでないか。
- ・どの部署も行革の必要性をもっと強く持つところから意識改革していくことが重要。
- ・全ての職員が自分の業務を見直すことは、行革大綱と関係なしに、当然のこと。
- ・行革は、マイナスではなくプラスなのだと、認識をしっかりと持つことが必要。
- ・「行革」と言うと、職員にとっては、自分が今している業務を否定されるような、自己否定をするような暗いイメージがあるので、より良くするための明るいイメージを持つことが大事。いいことをするという意識が大事なので、基本的な考え方の中で 1 番上が良い。
- ・1 枚目は、民間活力の導入だけでなく、大綱全体を力強く推進するための留意事項という形で、全体をカバーした方向性を示してあげたほうが良い。
- ・大きいところから流れるストーリーとして、基本的な考え方の 7 点は、2・4・1・3・5・6・7 に並べ替える方がよい。
- ・並べ直して、2 番の「明るいイメージの行革」が 1 番の頭にくるとなると、もう少し大上段の意味にしたい。「明るいイメージ」だけではピンと来にくいので、例えば、民間活力の導入によって市民サービスの向上やコスト削減を図る創生のための改革という言葉を加えるなど。
- ・1 枚目は、職員向けに心構えを書いたイメージなので、大綱が取り上げている課題については、例えば「協働組織の育成はこういう風に」という具体的な方向性を示す通達を出してはどうか。
- ・昨日のテレビで、高松市の事例として、1 ヶ月掛かっていた保育園の待機児童の割り当て作業を A I で処理すると 50 秒で出来るようになったと紹介していた。多量の業務を短期的に処理する業務について、今後は、A I の活用という発想も持ってもいいのではないか。業務によっては、民間委託よりも、A I で処理した方がよいものも出てくる。
- ・この提言が、一般の職員の方に、どこまでどのように浸透していくのか心配。
- ・市民のことを考えると、民間活力を導入した時には、上手くバトンを渡してほしい。さらに、渡した後も、市が責任を持って管理・サポートしてくれると、市民としては安心できる。
- ・市役所に来て場所が分からなくて困っていた時に、職員がニコッと笑顔で対応してくれたことがうれしかった。そういう心の温かさが市民にとって大切。
- ・行革に取り組み、民間活力を導入しながらも、市民の声に耳を傾けて対応するなどの丁寧さを残して欲しい。市民の拠り所となれるように、心の部分を大切にしたい。
- ・部署ごとで、意識改革をしながらも、サービスをしているという心がけを持ってほしい。

会 長：結論として、1 枚目は順番を変え、文言を加えて提言とし、今年度の審議を終了とする。

## (2) 提言書提出

「民間活力」の導入推進に向けた基本的な考え方について提言書の提出

## 5 閉会 会長挨拶